

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*** 1888年のメルツ・レプソルド子午環観測原簿？**

2009年2月23日、元子午線部にいた鈴木君がひどく古い、痛んだ大型の分厚い原簿のようなものをアーカイブ室に届けてくれた。この帳簿は今まで見たこともない大きさで横x縦x厚さが35x51x4.5cmで立派な表紙がついている(写真1)。鈴木君は自動光電子午環の制御棟を片付けていてこの1冊を発見したそうだが、なぜこの1冊だけが存在しているのかは、謎だと言っている。



写真1 大型の古く、分厚い観測原簿

中を開くと、1888年の子午環の観測の原簿のように見える(写真2)。

月日	星名	等級	各観測時刻					平均	磁ノ値				平均	記事	備考	
			I	II	III	IV	V		A	B	C	D				
2 28	α Androm.	5	23 27.66	27.66	28.15	28.20	28.25	28.30	218	1	17.6	26.9	17.0	20.2	27.18	dump 14 W
	β Androm.	4	0 57		Barom 50.757				alt. ther. 58.0 F							
									ext. 11.1 C							
	ε Aquaric	5	1 10 30.20	30.20	30.65	31.10	31.55	11 46.5	203	50	7.6	27	13.0	2.6	6.57	
	ρ Cassiope	5							207	50	7.6	27	13.0	2.6	6.57	
	α Androm.	2							272	14	0.9	6.6	28	-7.0	1.63	
	γ Pegasi	3	37 43.14	43.14	43.60	44.05	44.50	40 71.5	286	8	23.0	20.3	27.0	11.1	20.65	
	α Cassiope	2							206	6.8	21.6	15.6	21.0	13.7	18.83	
			2 17		Barom 50.756				alt. 56.6 F							
									ext. 10.9 C							
	Observations of Nadir point								40	3	32.1	23.3	26.6	13.0	24.13	

写真2 1888年の年号があり、子午環観測とある

1888年といえば、東京天文台発足の年である。1878年に東京大学に観象台が置かれ、1882年に観象台が天象台と気象台に別れ、1888年に東京大学天象台、海軍観象台、内務省地理局の3者が統合されて東京大学東京天文台が設立されている。1888年東京天文台設立当時の観測器械の主なものは、口径13.5cm レプソルド子午儀、口径14.3cm メルツ・レプソルド子午環、口径20cm トロートン・シムス赤道儀、口径16.2cm メルツ赤道儀であった。

メルツ・レプソルド子午環(写真3)は1880年4月に海軍観象台に到着している。現在、三鷹の国立天文台にあるゴーチェ子午環は1903年にフランスで製作されたものであるから、この子午環というのはメルツ・レプソルド子午環の観測原簿ということになる。

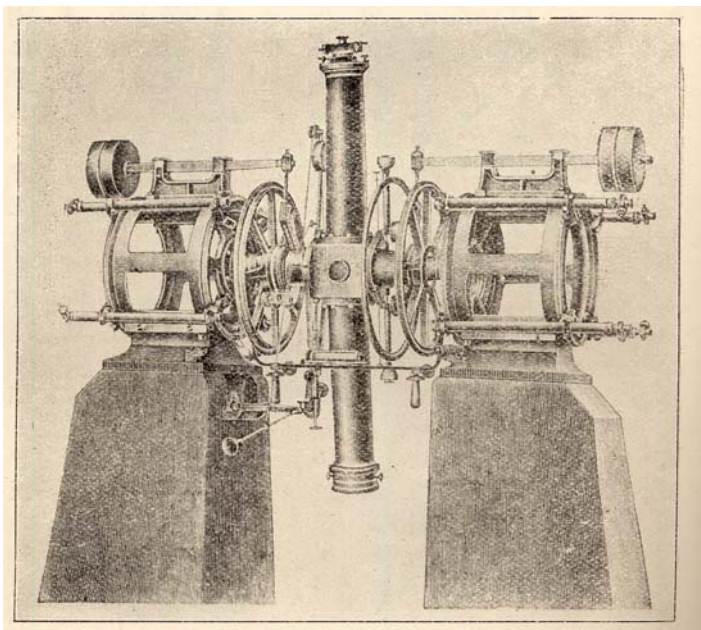


写真3 14.3cm メルツ・レプソルド子午環

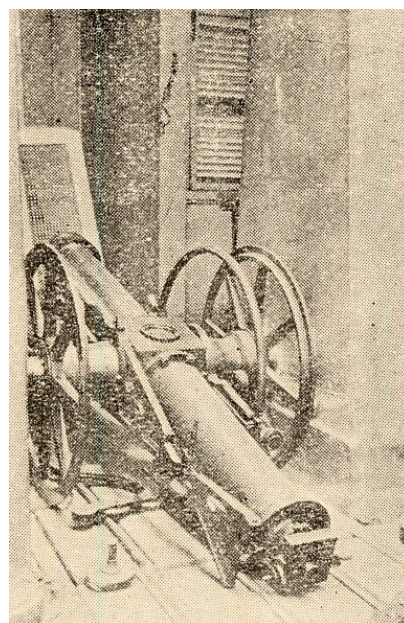


写真4 震災後の子午環

写真3のメルツ・レプソルド子午環は1923年9月1日の関東大震災で大破してしまった。大破時の写真(写真4)が存在している。この程度の損傷なら現物を残しておいて欲しかったと、現在のアーカイブ室としては非常に残念に思う。

当時の観測者の前でも読み取れればと思うが、写真5のように観測者は記号で書かれており誰か同定できない。ランプ W とあるのは視野照明ランプの西側のものが使われたものと思われる。

平均		記事	観測者名
		Lamp W	W
2.2	2938		

写真5 記事、観測者の項

原簿の記事の欄には写真6のような記事もある。またメルツ・レプソルド子午環の写真7も存在している。

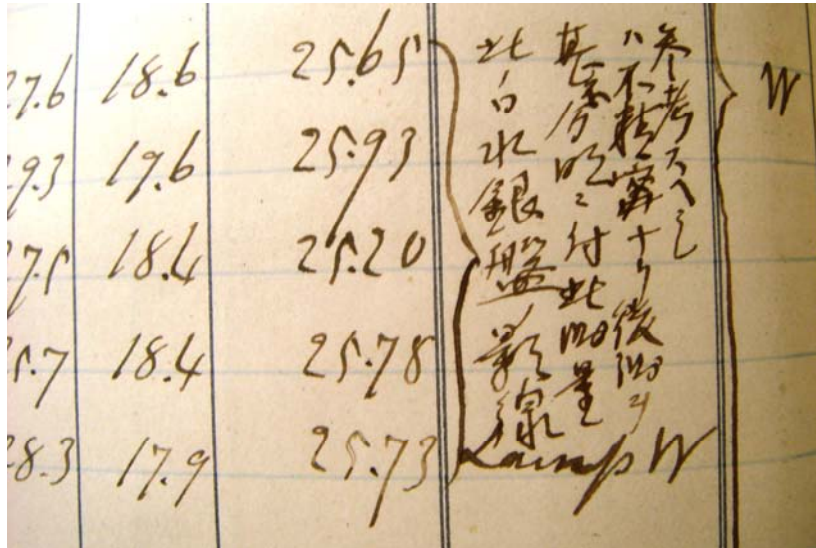


写真6 原簿の記事

この帳簿には、1888年10月～12月（1～40頁）、1989年1月～2月（41～45頁）、年不明9月（50～51頁）、1912年1月～5月（52～58頁）のみが記載されていて、以下502ページまでが余白である。どんな事情かは今や知る由もない。

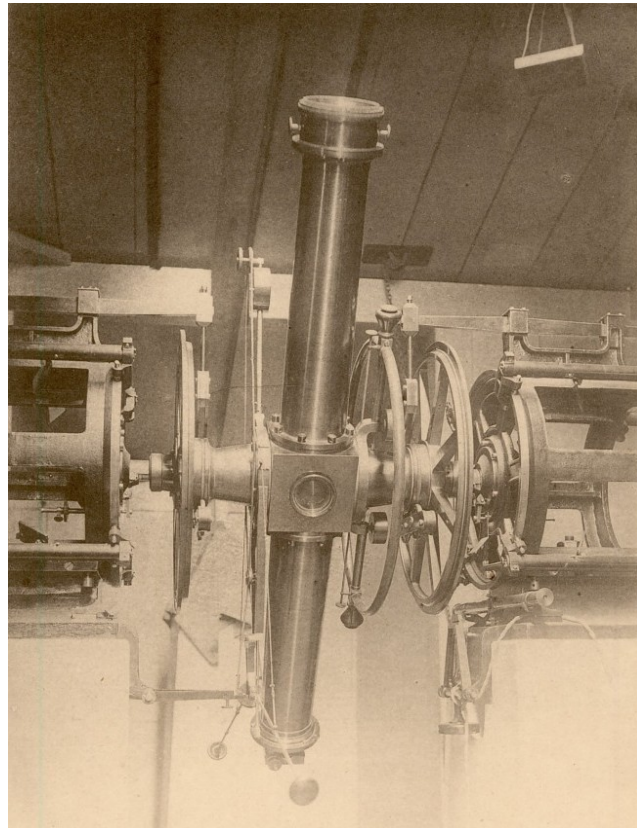


写真7 メルツ・レプソルド子午環